

川崎市議会議員 いわくま ちひろ

## 地下鉄事業に使ったお金の総額は?

民主党市議団  
連載No.54

本コラムでも何度も書いていますが、議会活動のライフワークとして「川崎縦貫高速鉄道(市営地下鉄)事業の廃止」その対案として「南武線の輸送力増強」や「横浜市営地下鉄3号線の延伸」等、都市交通政策について長年取り組んでいます。

平成25年度予算において、地下鉄事業に関する会計(高速鉄道事業)について、地下鉄を走らせその収益で会計を支払うていくのが本来あるべき姿ですが、川崎市は地下鉄が走っていないにも関わらず会計を維持してきたために、一般会計からお金を地下鉄会計に繰り出す形でやりくりしてきました。

業会計は閉鎖したものの、秋の市議会・決算審査特別委員会では、これまで長年に渡る地下鉄事業に費やした支出総額について調査しました。

他都市で見られるように、地下鉄に関する会計については、地下鉄を走らせその収益で会計を支払うていくのが本来あるべき姿ですが、川崎市は地下鉄が走っていないにも関わらず会計を維持してきたために、一般会計からお金を地下鉄会計に繰り出す形でやりくりしてきました。

高速鉄道事業会計の支出総額は、平成13年度から平成24年度末まで、**約40億4600万円**。内訳については、鉄道・運輸機構などへ委託した調査設計費が約13億5300万円、人件費が約19億1000万円、その他建設利息や諸費用が約7億8300万円となっています。

約40億4600万円も費やしていきながら、穴はひとつも掘っていません。今期で引退される市長は地下鉄事業の推進を公約に掲げられました。報道との記者会見において、40億円が無駄だったのでは?と問われると「40億円で将来の夢を見た」と極めて遺憾な発言をされています。地下鉄事業に費やした40億円を超えるお金は、今後戻ることはありません。

これが大型公共事業、行政事業の怖さです。私も必要なコンクリート事業は否定しません。しかし、行政が一度始めてしまった事業を途中で中断することがいかに困難であるか、この地下鉄事業はひとつの例だったといえます。

川崎市の総合都市交通計画の中に地下鉄事業は未だ明記されていません。言葉は辛辣ですが、往生際が悪いと言わざるを得ません。



川崎市議会議員  
ちひろ  
いわくま千尋

- 昭和50年生まれ 38歳
- 英国国立ウェールズ大学卒業  
ロンドン大学大学院研究生  
専門は国際政治学
- 国際派議員として、子どもから大人まで英語学とキャリア教育を教える。毎週日曜日は、イトーヨーカドー溝口店前で市政報告を継続中!(7年)

10月末には新しい市長が決まります。今後の都市交通のあり方についても新市長としっかりと議論を続けて参ります。

### いわくま ちひろ プロフィール

昭和50年2月26日生まれ ●成人して一週間目にカバンひとつで海外修行に出る。●奨学金を受けながら、英国国立ウェールズ大学卒業。英国国立ロンドン大学大学院研究生・専攻は国際政治学

●海外在住約8年 ●海外から日本を見て「教育」や「社会」に危機感を覚え政治の道を決意する

●衆議院議員秘書 ●公立中学校英語教育アドバイザー・英語講師。FMラジオパーソナリティ。

★いつも、ご一読いただきありがとうございます m(\_)\_m★

ご意見・ご要望お待ちしております!

e-mail  
chihiro1890@yahoo.co.jp

FAX  
044-245-4135

